【単年度事業評価様式】

鶴見区地域子育て支援拠点事業
令和6年度重点目標評価結果・令和7年度重点目標

事業実施期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日(2年度目／5か年度)
事業の実施者	社会福祉法人青い鳥
	鶴見区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 鶴見区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

1 令和6年度重点目標の評価

令和6年度重点目標	<p>【重点目標1】 ○多様な養育者が妊娠期から地域とつながりを持ち、安心して子育てができるよう、切れ目ない支援を強化していく。</p> <p>【重点目標2】 ○ネットワークを活用して顔の見える関係づくりを深め、事業周知や情報収集・提供を進め、関係機関と相互の事業協力を強化していく。</p>
-----------	--

<p>取組内容</p>	<p>【重点目標1】 ○妊娠期からの不安に寄り添い相談しやすい環境を整えていく。 ・プレママプレパパ向けに「おしゃべり会」等の交流会を検討する。</p> <p>○「プレママプレパパの会」の見直しを行う。 ・参加者が行きやすい会場で参加でき、地域の子育て資源を伝えやすくなるよう、各地域ケアプラザでの開催について検討していく。 ・当事者同士や先輩ママ、パパとの交流タイムを設け、出産前後の不安を共有できるよう内容を変更する。</p> <p>【重点目標2】 ○顔の見える関係づくりを深めるため、スタッフを地区担当制にし、地区ごとに丁寧な対応をしていく。 ・各地域の現状を知り、必要な情報を収集し養育者に届ける。</p> <p>○ふらっとる一むネットワーク会議の地区別連絡会の開催について検討していく。 ・ふらっとる一むアンケートを基に課題のある会場を訪問し、困りごとの共有に努める。 ・昨年の寺尾・馬場地区に続き、今年度は駒岡・末吉地区での開催も検討する。</p> <p>○ネットワークを活用したアウトリーチ事業について見直しを行う。 ・地域ケアプラザや保育園、地域の子育てに支援に関わる施設、子育てサークル等にも声をかけ、外遊びを意識した「公園へ行ってみよう」や、子育てサポートシステムの入会説明会と遊びの広場のコラボ企画「おでかけわっくん」を開催する。 ・外遊びを意識した養育者向け「外遊び講座(仮)」の開催について検討していく。</p> <p>○ネットワークを活用して、横浜子育てサポートシステム新システムの事業説明やチラシの配架・掲示等を進め、強化していく。 ・新事業導入に伴う活動依頼の増加に対応できるよう、提供会員・両方会員の増員に努める。 ・子育てサポートシステムの会員継続のため、「横浜子育て支援拠点サイト」導入で会員が混乱しないよう拠点内外での説明会等の工夫をし、必要に応じて個別サポートもしていく。</p>
<p>取組の効果</p>	<p>【重点目標1】【振り返り】 ○妊娠期からの不安に寄り添い相談しやすい環境を整えていく。 ・「プレママと先輩ママのおしゃべり会」を2回開催。マタニティストレッチや調乳体験を行った。先輩ママとの交流の中で不安な気持ちを参加者で共有し、産後の相談先を確認することにつながった。 ・「プレパパと先輩パパの交流会」ではプレパパの不安に寄り添って、先輩パパや育児経験のある男性保育士が交流する時間が持てた。妻が出産後、拠点への相談につながった参加者もいて、父親の相談先としての周知ができたことを確認した。</p> <p>○「プレママプレパパの会」の見直しを行う。 ・前年度の参加者が多い時期に定員が増加できる地域ケアプラザで開催した。地域で行ったことで子育て資源を身近に伝えることができ、関係機関との連携を深めることができた。 ・プレママプレパパ会の内容変更を行い、出産前後の不安解消や産後の子育てのイメージがつきやすくなるように、拠点を利用している親子との交流時間を設けた。</p> <p>【重点目標2】【振り返り】 ○顔の見える関係づくりを深めるため、スタッフを地区担当制にし、地区ごとに丁寧な対応をしていく。 ・スタッフを地区担当制にし情報交換会の参加や、地区の子育て支援連絡会を開催したことで地域の子育て支援関係者との顔の見える関係づくりに繋がった。 ・スタッフミーティングでは、地区ごとの資源や現状を知る機会を設け、こども家庭支援課地区担当保健師とスタッフ全員が各地区の理解を深め、地域連携や相談対応に活かすことができた。</p> <p>○ふらっとる一むネットワーク会議の地区別連絡会の開催について検討していく。 ・ふらっとる一む32か所に訪問し地域の支援者の思いや困りごとを共有した。また拠点の役割を伝え、顔の見える関係を築いた。 ・昨年開催の寺尾・馬場地区から地域をさらに広め、駒岡・末吉を含めた鶴見区の山側の地域でふらっとる一む地区別会議を行った。お互いの顔や活動がわかることにより、より強い仲間意識が芽生えた。</p> <p>○ネットワークを活用したアウトリーチ事業について見直しを行う。 ・地域ケアプラザや保育園、地域の子育て支援に関わる施設、子育てサークルに声をかけ、「公園へ行ってみよう」を9回開催し、参加した親子との遊びや会話の中で、必要な情報提供や地域資源の紹介を行った。拠点と接点がなく地域の居場所や社会資源と関わりがなかった子育て家庭と接点を持つことができ、その後それらの場に足を運んでもらうきっかけづくりとなった。</p> <p>○ネットワークを活用して、横浜子育てサポートシステム新システムの事業説明やチラシの配架・掲示等を進め、強化していく。 ・ネットワークを活用して、横浜子育てサポートシステム新システムの事業説明やチラシの配架・掲示等を行った。 ・提供・両方会員の活動の定着・促進のために、全会員に向けメールの配信またチラシの配架を行った。 ・子育てサポートシステムの「横浜子育て支援拠点サイト」導入で会員が混乱しないよう拠点内外での説明会を行い、拠点サイト運用マニュアルを作成し提供、両方会員に郵送をする等、会員継続のための施策を実施した。また拠点サイト運用マニュアルを使用し必要に応じて個別サポートも行った。</p>

取組の課題	<p>【重点目標1】 ○妊娠初期のイベントについては、参加者が少なかった。 早期から拠点とつながりが持てるよう、妊娠期の利用者への周知方法の見直しを検討していく。</p> <p>【重点目標2】 ○スタッフを地区担当制にしたが、担当地区に出向く機会が少なかった。地域連携強化のため、今後は担当地区に出向くよう努めていく。</p> <p>○横浜子育てサポートシステム提供・両方会員の増加が図れるよう、ネットワークを活用した周知方法を検討していく。</p>
-------	---

2 次年度重点目標

令和7年度 重点目標	<p>【重点目標1】 妊娠期からの継続的な支援と地域のつながりを通して、安心して子育てできる地域づくりを推進していく。</p> <p>【重点目標2】 子育て家庭が地域で孤立することがないように、ネットワークで築いた関係を活かし、地域ぐるみで子育て支援体制の基盤強化を目指していく。</p>
取組内容	<p>【重点目標1】 ○妊娠期から交流の場を提供し、相談しやすい環境を整えていく。 ・産前産後の交流イベントの内容や周知方法を見直し、イベントの充実を図る。 ・家庭や地域での孤立感の解消のため、地域との連携イベントを検討する。 ・地域ケアプラザで「プレママプレパパの会」を継続開催し、地域の子育て資源や情報を伝える。</p> <p>【重点目標2】 ○ネットワークを活かし、担い手同士が連携・協力し合い包括的な支援につなげる。 ・親と子のつどいの広場、保育園、一時保育事業者、地域ケアプラザ、療育センターとの連絡会を通じて、地域での困りごとや情報を共有し、より協力体制を深める。 ・図書館、国際交流ラウンジ、地域ケアプラザ、プレイパーク等とのイベント開催について検討する。 ・スタッフを地区担当制にし、より担当地域との協力体制を強化していく。 ・拠点の周知と地域とのつながりのため、ネットワークを活用したアウトリーチ事業を展開し、拠点利用のない親子に対して拠点の機能を普及啓発していく。 ・横浜子育てサポートシステム入会説明会においてアクセスが難しい地域でも開催を継続し、広く参加の機会を提供する。</p>

3 協働のプロセスの評価

①事業計画段階

		区	拠点	相互評価
1	自分たちが達成すべき大きな目的や理念についてよく話し合うことができましたか。	A	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A	A
3	お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	B	B	B
4	子育て家庭や子育て支援に関わる市民のニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めることができましたか。	A	A	A
5	目指す拠点の姿に近づくためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	B	B	B
6	この事業の実施目的・目標や事業計画について、ホームページや通信等を使って市民に発信することができましたか。	A	B	A

②事業実施段階

		区	拠点	相互評価
1	率直な意見交換のもと、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	B	B
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	B	B
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	B	A	B
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	C	B	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	A	A

③事業の振り返り段階

		区	拠点	相互評価
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できましたか。	B	B	B
2	子育て家庭や子育て支援に関わる市民が満足を得られたかどうかについて、アンケート調査や話し合いによって確認することができましたか。	A	A	A
3	これまでの取組経過を振り返っ、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができましたか。	B	B	B

取組経過について振り返り、協働に必要な取組が出来ていたかを評価します。

評価基準

A よくできた B できた C あまりできなかった D まったくできなかった